

2019 spring
china camp



巻頭言

中国のハンセン病快復者との交流

国際ボランティア

いいえ、僕にとっては

遠く大切な人に会いに行く

ただそれだけのこと..

彼らと過ごす日々の中で

感じ、楽しみ、考え、ときには悩み、

僕らの心に刻まれる

いつまでも色あせることのない絆

“あなた”と“わたし”

この経験が春の風に乗って

多くの人に届くことを信じている

そして、僕らの作ってきた轍さえない

新たな道、新たな未来へ

繋がれ Re:

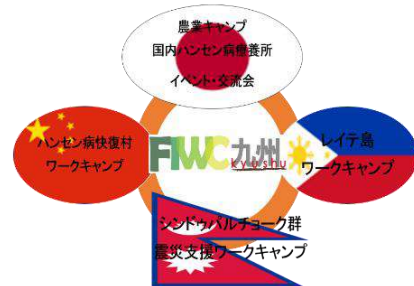
目次

1. 目次 ... 3P
2. FIWC とは ... 4P
3. チャイナキャンプとは ... 5P
4. ハンセン病とは ... 6P
5. JIA とは ... 9P
6. ワークキャンプとは ... 12P
7. 国内外のスケジュール ... 14P
8. 2018年夏チャイナキャンプ形態 ... 16P
9. キャンプテーマ&キャンプグッズ ... 17P
10. 儒洞(ルードン)村ワークキャンプ報告...18P
11. 藤橋(テンチャオ)村ワークキャンプ ...25P
12. 高明ビジットキャンプ...30P
13. 衣食住 ... 31P
14. 各係の仕事 ... 34P
15. 保険&会計について ... 38P
16. 他己紹介 ... 42P
17. 感想 ... 45P
18. ベストショット集 ... P



FIWC とは

FIWC とは、フレンズ国際ワークキャンプ (Friends International Work Camp)の略称です。第二次世界大戦後復興のため、アメリカ・フレンズ奉仕団(AFSC)がワークキャンプを日本で実施したのが始まりで、1950年代にAFSCから独立し、FIWC が結成されました。それ以来 FIWC は、国内外でワークキャンプを 60 年以上実施しています。現在その支部は全国に広がり、FIWC 関西委員会、関東委員



会、東海委員会、九州委員会が活動しています。私たち九州委員会は九州(主に福岡)の大学生が主体となり、学生のみで運営・活動をしており、国外ではフィリピン、中国、ネパール、国内では耶馬溪の農業キャンプや国立ハンセン病療養所などを中心に活動しています。また、私たちFIWCは、一般市民・学生による任意の非政府組織(NGO)であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係のない学生団体です。



FIWC 九州のチャイナキャンプとは

私たちは、かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人が住む

「ハンセン病快復村」でキャンプを行います。

村人はハンセン病が完治しているにもかかわらず、後遺症や周囲からの差別によって依然として孤立した環境や不便な生活を強いられています。チャイナキャンプでは、村の家屋の一室を借りて村人と生活を共にしながら主に5つのことを行っています。

村のインフラ整備を目的としたワークプロジェクト

→水路の建設、ゴミの撤去など

後遺症により日常生活が困難な村人の手伝いをするワーク

→村人の家の掃除、蚊帳やベットシーツなどの洗濯など

周囲の町や村に対してハンセン病について理解してもらう啓蒙活動

村人と楽しい時間を共有するためのパーティ

村や村人についての記録プロジェクト

私たちは、現地のNPO「家-JIA-」の会員である中国人学生と一緒に、これらの活動を行っています。

ハンセン病とは

私たちがチャイナキャンプで出会うのは、『ハンセン病快復者』と呼ばれる人たちです。

では、そもそもハンセン病とはどんな病気なのでしょうか？

そして、『ハンセン病快復者』とはどのような方々なのでしょうか？

- ① ハンセン病とは、『らい菌』による感染症です。
- ② かつては不治の病とされていましたが、現在では確立された治療法があります。
- ③ ハンセン病患者の方は、世界中で差別を受けた歴史があります。

①ハンセン病とは、『らい菌』による感染症です。

さて、ハンセン病にかかるとどうなるのか。末梢神経が麻痺して、知覚が鈍くなります。例えば手に触れたものが熱いのか冷たいのか、柔らかいのかゴツゴツしているのか、そういったことがわからなくなります。痛みも感じなくなります。そのせいで、ケガややけどが重症化しやすくなります。ひどい人だと、手足を切らなくてはならないほどの怪我をすることもあります。また、ハンセン病の症状が進むと、身体の一部が変形したり、なくなったりすることもあります。

ハンセン病は感染症と書きましたね。うつる病気。そう考えると怖いと思っちゃいますよね。でも、このらい菌の感染力はとても弱く、世界中のほとんどの人が免疫を持っているのです。うつるのは治療をしていない患者の方と密接かつ頻繁に接触した場合にのみ感染します。それも赤ちゃんや、衛生環境・食糧状態が悪いところにいる人などの、免疫力が不完全な人 のみに感染すると言われていきます。また、村に行って出会う村人は『快復者』という方々で、文字通りすでに治療が終わっています。つまり、私たちが今ハンセン病患者の方と会っても、うつる可能性は限りなく低いのです。

②かつては不治の病とされていましたが現在では確立された治療法があります。

歴史上で最古のハンセン病についても記録は紀元前6世紀のインドの古書に記載されています。それほど昔からハンセン病は存在していたにも関わらず、20世紀まで有効な治療法や薬は存在せず、それまでは治らない病気でした。今では『多剤併用療法(Multi Drug Therapy)』という治療法が開発されており、MDT に必要な治療薬は現在、世界中で無償で提供されています。ハンセン病は、現在は治る病気なのです。

③ ハンセン病患者の方は、世界中で差別を受けた歴史があります。

先ほど説明したように、ハンセン病はうつる病気であり、身体の変形が起こります。また、かつては不治の病と言われていました。このことから、ハンセン病患者の方は世界中で差別を受けました。特に、隔離政策が世界中さまざまな国で行われ、日本や中国でも行われていました。ハンセン病患者

を家族から切り離して、患者だけを集めたコロニーを山奥や孤島に作りました。そこから出ることは許されず、患者は一生そこに住み続けることになりました。今では、行き来が可能になっているコロニーは少なくありませんが、知人や家族から、そして社会から隔絶された快復者の中には、隔離政策が終わっても帰る場所がない方がたくさんいます。

さて、ここまで読んでみて、皆さんは『ハンセン病快復者』に対してどのような印象を持ちましたか？

『**暗い、可哀相な人たち**』と思う人が多いのではないのでしょうか？

ハンセン病差別の歴史を知って欲しいから、前半は重い歴史的事実を書きました。ここから書く内容は私が実際に『ハンセン病快復者』に会って受けた印象です。

実は、私たちが会おうハンセン病快復者のおじいちゃんおばあちゃんってみんないつも**明るく、温かき**に満ち溢れているんです！

私たちが来れば心から喜んでくれて、いつも明るい笑顔を向けてくれます。

『**君たちが来てくれることが私の幸せだ。**』このように言ってくれる村人もいます。

自分より私たちを優先して気遣ってくれます。

私はこの方々たちより優しい人たちを知りません。

私は心の底から村人が大好きで尊敬しています。

助けに行くつもりが、自分が村人たちに助けられていました。

『ハンセン病快復者』は決して単に可哀相な人たちなどではなく、

この方々たちはハンセン病差別を受けたにも関わらず、**強く、優しく**生きている、尊敬すべきおじいちゃんおばあちゃんでした。

しかし、村人がいくらいつも明るく振舞っているといっても、村人の心の中には差別

を受けた**傷**が常に残り続けています。

このことは、いついかなるときも忘れずに関わり続けなくてはならないと思います。

村人が私たちに沢山の**愛**を与えてくれたから、

私たちが常に『**村人のために何ができるのか**』を考えて、行動する。

お互いがお互いを想って、愛を持って、関わり合う。

村人が『**また来てほしい**』と言ってくれるから、『**また行きたい**』と思えます。



～家-JIA- とは～

チャイナキャンプでは、FIWC 九州と中国の民間非営利団体『家-JIA-』（後述 JIA）が合同でワークキャンプ活動を行っています。JIA なくして、チャイナキャンプは語れません！



JIA は、2004 年 8 月 30 日に FIWC 関東 OB の原田遼太郎(通称タイランさん)と数人の同士によって、設立されました。JIA では、中国国内南部五省(広東省、広西省、海南省、湖南省、湖北省)にあるハンセン病快復村及びその周辺の地域で、ハンセン病快復者の生活・社会環境の改善を目的としてワークキャンプを行っています。

主な活動内容として、水道設置や道路舗装などのインフラ整備や、ハンセン病に対する差別をなくし、理解を深めるためのプロモーション活動などのプロジェクトを実施しています。

◆ JIA 設立者

原田遼太郎(タイランさん)



1978 年、神奈川県生まれ。早稲田大学卒業後、2003 年 4 月中国ハンセン病快復村リンホウ村(広東省潮州市)に移住。2004 年、『家-JIA-』を設立。日本だけでなく中国の講演実績も豊富で、その内外から大きな評価を得ている。

実際、今回のチャイナキャンプ中にタイランさんの家に訪れました。とても親しみやすい方で、リンホウ村でのエピソードや JIA が設立するまでの話を聞かせていただきました！

タイランさんとは日本で会える機会もあるのでそのときはぜひ話してみてください。

JIA やハンセン病のことなど貴重なお話が聞けるかも？

JIA は、現地(快復者)の生活および社会環境を改善すると同時に、その体験を通して若者の成長を促し、社会に貢献する人材の育成を担っています。計8つの地区委員会と事務局が存在しており、各委員会は大学生を中心としたボランティアが自主的に活動を運営し、事務局はその活動を人材育成、情報、物資、財務、など様々な面からサポートしています。また、大学卒業後には“Back up Team”を組織してサポートを行っています。



◆ 家-JIA-の理念

“Joy In Action”

社会にはたくさんの方がいます。

人によって意見も異なります。

議論し、考えるだけでは、問題の解決にはつながりません。

行動が必要なのです。

それぞれが主体的、自体的にワークキャンプに参加することで、
互いの違いを認め、尊重しあい、ツナガリが生まれます。

この過程には多くの時間やエネルギーを要するかもしれません。

しかし、その過程の先にあるものこそが、“Joy In Action”です。

◆ JIA 広州委員会

私達は中国の広州地区にある JIA 広州委員会と共同でキャンプを行っています。

広州委員会のメンバーはほとんどが広州市内に住む学生です。

キャンプを一緒に行っていく際、彼らとは英語でコミュニケーションをとります。

みんな気さくで、とっても面白い子ばかりで、毎日笑いが絶えませんでした！

同世代の子が多いのでとても仲良くなり、今でも連絡を取り合っています！

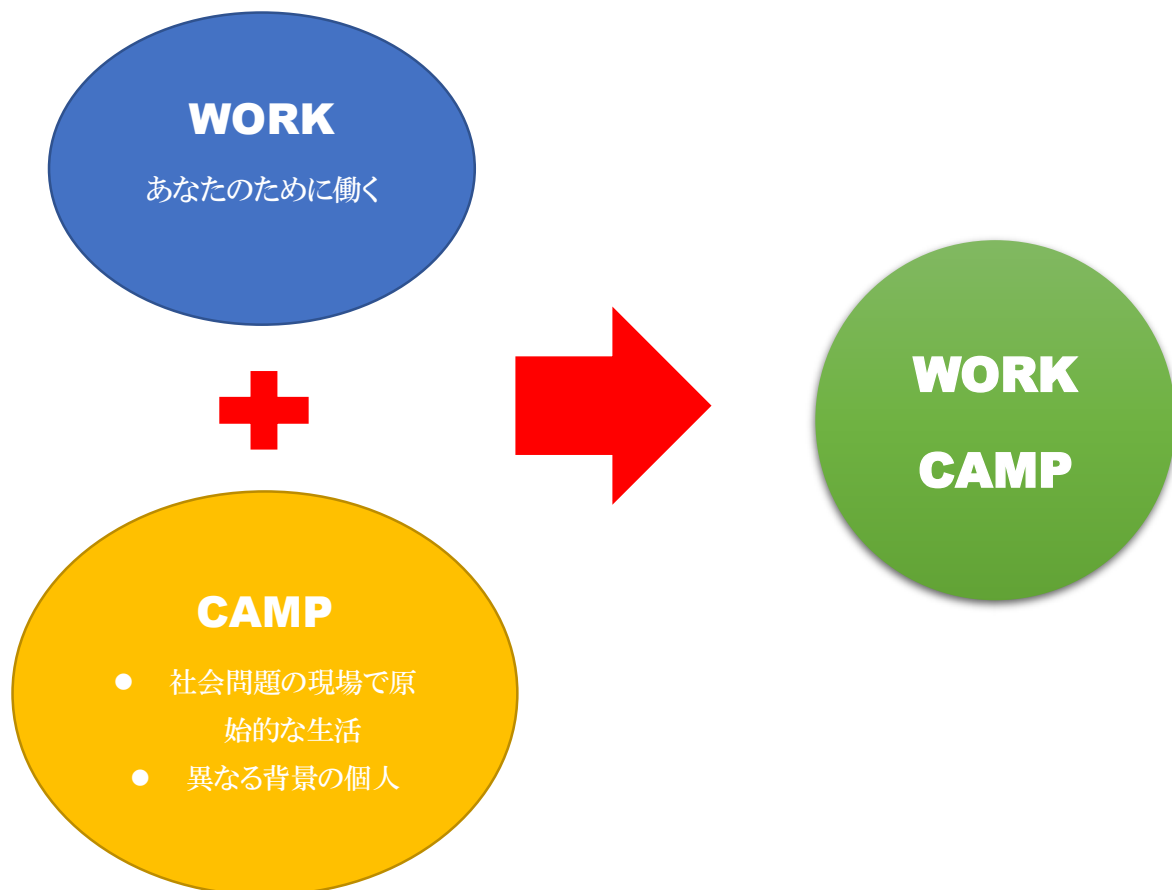


阳西
儒洞



ワークキャンプとは

ワークキャンプとは、work と camp を組み合わせてできた言葉です。



ワークキャンプはボランティア活動の形態の一つで、外部から支援するのではなく、現地に赴き、そこで共同生活をしながらその場所で必要とされているワークを行うキャンプのことです。

〈JIA のワークキャンプ〉

JIA のワークキャンプでは、20-30 名のキャンパーがハンセン病快復村及びその周辺の地域で 1-3 週間で共同生活し、インフラ整備や現地の人々との交流、啓蒙活動などのプロジェクトを行います。

キャンパーが快復村に住み込むことは、周辺住民のハンセン病に対する恐怖感を取り除く効果があり、ハンセン病に対する理解を深めることができます。そして、ワークキャンプを通して、共に飲み、語り、食べ、汗を流しながら一緒に時間を過ごすことで、キャンパーと村人(ハンセン病快復者)の間には繋がりが生まれます。



また、JIA ワークキャンプはハンセン病快復村に生活、経済、健康、社会(差別の軽減)、心理などの様々な面においての変化をもたらしてきました。



スケジュール












【日本でのスケジュール】

- 11/27 キャンパー募集締め切り
- 11/29 第1回 MTG@びおと一ふ
- 12/10 海外安全セミナー@西南学院大学
- 12/13 第2回 MTG@びおと一ふ
- 12/31 第3回 MTG@あすみん
- 1/7 第4回 MTG@びおと一ふ
- 1/16 第5回 MTG@びおと一ふ
- 1/18 第6回 MTG@あすみん
- 2/1 第7回 MTG@びおと一ふ
- 2/8 第8回 MTG@びおと一ふ
- 2/11 決起会&日本食練習@びおと一ふ



【中国でのスケジュール】

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
10	11	12 日本出発 	13 中国到着 	14 JIA オフィス 滞在 	15	16 テンチャオ 村滞在 
17 ルードン村滞 在 	18	19	20	21	22	23 ガオミン村ビ ジット 
24 タイランさん 宅訪問  	25 中国出発	26 日本帰国 	27	28 		

・ワークキャンプタイムテーブル

〈 テンチャオ村 & ルードン村 〉

TIME	JOB
7:00~7:20	起床
7:20~7:45	ランニング&キャンプダンス練習
7:50~8:20	朝食
8:50	集合
8:50~11:55	午前プロジェクト
12:00~12:30	昼食
12:30~14:00	自由時間
14:15	集合
14:30~17:50	午後プロジェクト
18:00~18:30	夕食
18:30~20:30	自由時間
20:30~22:00	MTG
22:00~22:30	レクリエーション
22:00~24:00	ナイトチャット



2019 年チャイナキャンプ形態

2019 年春のチャイナキャンプは、FIWC 九州 7 名が中国に訪れました。今回は、今までとは違い、中国の広州にある2つの村でワークキャンプを行いました。よって日本人キャンパー7 名が 3 人と 4 人の2つに分けられました。

儒洞村-ルードン村-ワークキャンプ(2/17~22)

参加者:しばた~, かせちゃん, きたまな JIA 広州委員会 21 名



藤橋村-テンチャオ村-ワークキャンプ(2/16~21)

参加者:だいちゃん, りか, うらちゃん, ぽぽ JIA 広州委員会 20 名



ピジットで訪れた**高明村-ガオミン村**には、キャンパー7 名と JIA 広州委員会 15 名で訪れました。

キャンプテーマ

2019 年春チャイナキャンプのテーマは「轍」

“轍”とは”車の通った車輪の跡“のことを指します。先輩方がこれまでつけてきたこの”轍“の先に、今回のキャンプで新たな”轍“を刻み込みたい、という意味を込めて今回のキャンプテーマを決定しました。

キャンプグッズ

例年、キャンパーおそろいの T シャツを作ってましたが、今回はかせちゃん始動でアイマスクとリストバンドをつくりました！チャイナカラーの赤色で、みんなで着けると一体感が出てかっこよく仕上がりました！



儒洞(ルードン)村ワークキャンプ

今回は濡洞村(ルードン村)に 7 日間滞在し、ワークキャンプを行いました。現在、村人は 25 人いて、22 人が永住者です。そのうち、16 名が男性で、6 名が女性です。2017年3月に初めて、4人の JIA 広州委員会のボランティアが訪れました。村人と病院の方々はボランティアを歓迎しました。2017年8月と2018年2月と10月、計3度 JIA 広州委員会がワークキャンプを行い、水路の修繕や簡易的なバスルームなどのインフラの整備を行いました。

これらの活動を通して村人とは良い関係を築いてきました。村にはキッチンをついた家が 9 列あります。さらに 2 つの共同トイレがあり、そのうちの 1 つは昨年建てられました。幸運なことに、2018年10月にお風呂が建設されました。

〈日程〉

2/17~2/22

〈参加者〉

日本人キャンパー3名

中国人キャンパー21名

〈活動内容〉

- 1.ビッグクリーニング
- 2.水路修理
- 3.窓装飾の切り絵
- 4.カーニバル
- 5.ランタンフェスティバルの挨拶、
- 6.健康診断&健康講座
- 7.村人生活密着
- 8.料理大会



①ビッグクリーニング

村人の家の中(床、天井、窓)や、ごみ捨て場など汚くなっているところを掃除しました。

村人と交流しながら、楽しく掃除をしました。

2人の村人の家の裏に捨てられていたごみの撤去も行いました。また、旧正月を祝う玄関口の春聯を古いものから新しいものに貼りかえるという作業も並行して行いました。2人の村人の家の裏に捨てられていたごみの撤去も行いました。



②水路の修繕

村人の家の前にある小さな水路の修繕と掃除を行いました。力持ちの男の人たちが以前作った水路の幅を広げるという作業を行い、水路に生えていたコケを掃除しました。



Before



Cleaning





Complete!!

Repairing



③窓装飾の切り絵

今回の3大プロジェクトの一つ！旧正月を彩る赤色の紙を使用し、村人と一緒に切り絵を作りました。3回折った紙に模様を描き、下絵の通りに切って広げると…綺麗な模様の出来上がり！！それを村人の家の窓や壁に貼りに行きました。



④カーニバル

今回の3大プロジェクトの一つ！旧正月を盛大にお祝いしました！キャンパーが村人の元を回り、紅包(ラッキーマネー)や飴を配ったり歌を歌ったり、西遊記の劇や、ゲームなど内容盛りだくさんで、村人もキャンパーも大満足でした。村人との距離もぐっと近づきました。





チャイニーズキャンパーの劇を真剣に見守る村人たち！！



⑤ランタンフェスティバルの挨拶

中国のお祭りの一つである元宵説(ランタンフェスティバル)の日に、村人の家族や親戚、親しみのあるオールドキャンパーに電話をかけて挨拶をしました。久しぶりの交流に村人はとても喜んでいました。



前キャンパーのまさみやゆうたにビデオ電話しました！

もう一つのキャンプ地、テンチャオ村のキャンパーとも電話をして、会話を楽しんでいました！



⑥健康診断&健康講座

3日間ほどかけて、村人の血圧と血糖値を計測しました。また、ホームビジットの際に村人の健康情報、服用薬について調査を行い、期限切れの薬を回収しました。後日に村人を集め、陥りやすい病気などを紹介する健康講座を行いました。その中で、日本人キャンパーから「足浴」のレクチャーを行いました。



きたまなの足浴口座にみんなくぎ付け(笑)

⑦村人生活密着

ホームビジットだけでなく、村人の普段の生活に密着するというプロジェクトを行いました。村から出て、市場に行き、買い物と一緒に楽しみました。また、村の中では、木陰で会話をしたり、囲碁や縄跳びなどの遊びを楽しんだりしました。



⑧料理大会

今回の3大プロジェクトの一つ！日本料理 VS 中国料理で対決しました。それぞれのキャンパーが、制限時間内に料理を3品ずつ作り、村人に食べてもらって投票をしてもらいました。村人や、チャイニーズキャンパーにも手伝ってもらいとても楽しかったです。なんと結果は…日本チームの勝利！！慣れない調理場でバタバタ作り、慌てふためいていた様子が村人にウケていたそうです。

村人と天ぷら用のエビのからむき！
敵であるはずのチャイニーズキャンパーも助けてくれました！！





中華鍋の大きさに最初は
驚きました！



めちゃくちゃおいしかったなー！！



藤橋(テンチャオ)村ワークキャンプ

今回は FIWC 九州初の藤析(テンチャオ)村に7日間滞在しました！
20人ほどが住んでいて、水、電気は通っている比較的環境が整った村です。
それでは、キャンプで行った各活動の内容を紹介していきます！

〈日程〉

2/15～2/21

〈参加者〉

日本人キャンパー4名
中国人キャンパー20名

〈活動内容〉

1. 排水溝掃除&トイレ修理
2. ホームビジット
3. ランタン作り
4. orienteering game
5. Nianli Festival
6. Party



① 排水溝掃除&トイレ修理

排水溝に多くの泥などがあり、水が流れにくい状況になっていたのでキャンパーと村人で掃除をしました。また、今後は泥が堆積してしまわないようにコンクリートで溝を補修しました。



Before



After



② ホームビジット

ホームビジットとは、2, 3人のグループに分かれて村人のお宅を訪問して交流をする時間のことです。この活動が、チャイナキャンプの醍醐味といっても過言ではありません！

お菓子を一緒に食べながらお話ししたり、マージャンしたり、何人かの村人は以前来ていた日本人キャンパーとの思い出を話してくれたりと村人と一緒に楽しい時間を過ごします。



③ランタン作り

日本では、1月1日が元旦でお祝いをしますが、中国では、旧暦の1月1日である春節でお祝いします。今年は2月5日でした。春節の習慣として、春聯(しゅんれん)という門や入り口などに飾られる対になったおめでたいことばやランタンがあります。今回はランタンを村人と一緒に作って、村人の家に飾りました。



④Orienteering Game



EL(entertainment leader)の主催でキャンパーと村人が一緒に楽しめるゲームを行いました。説明が中国語だけだったので日本人は戸惑うことも多かったですが(笑)、村人と楽しいひとときを過ごすことができました！！

⑤Nianli Festival

Nianli Festivalとは、村人と大広間で一緒にご飯を食べるイベントです。

村人たちと一緒にご飯を準備して、いろいろな話をしながらご飯を食べた時間は本当に楽しかったです！！

一緒に食事することで、また一段と心が近くなったように感じました！



⑥TengQiao Party

TengQuio Party ではキャンパーたちがダンスや科学実験など様々な出し物を村人に披露しました！

日本人企画として「箱の中身はなんだろう」を行いました。わかりやすいものだったので村人もすぐに理解してくれ、大盛り上がりでした。実際に何人かの村人にもゲームに参加してもらいました。



* 日本人企画

今回のキャンプでは栗きんとんを振る舞いました！中国にも同じような食べ物があったので好評でしたが、ご飯と一緒に食べるには甘すぎました(笑)。また、日本のお菓子としてヤングドーナツとカルパスを持って行きました。どの村人もおいしいと食べてくれました！！



高明（ガオミン）村ビジット

○高明村とは・・・

JIA のオフィスから車で 2 時間程の所に位置し、現在は約 40 名の村人が暮らしている比較的大きな村です。FIWC 九州としても何度も訪れた経緯があり、日本人に対してとてもフレンドリーな村人が多くいます。今回のキャンプでは 3 名の日本人キャンパーが過去のキャンプで高村を訪れていたこともあり、久々の再会に胸が躍りました。

* 日程： 2/23,24

* 参加者： 日本人キャンパー 7 名

中国人キャンパー 13 名



今回の Visit は短期間だったのでプロジェクトは行わず、村人との交流を自由気ままに楽しみました！！



また会えてよかった！ 再见（またね）！！

衣食住

○衣

私達が行く広州地区は沖縄と同じ位の緯度に位置することから2月といっても温かく過ごしやすい気温でした。基本的には上はTシャツの上にパーカーを羽織り、下はジャージ、靴は動きやすいスニーカーかクロックス、といったラフな格好で過ごしました。また、虫刺され予防のために、上下長袖長ズボンで過ごし、靴下はくるぶしが隠れる長さのものを履くようにしました。たま〜に寒い日が来るので防寒着を1枚持ってくるとうまいでしょう！



○食

オフィスに滞在している時は基本的に付近の飲食店で食べていました。味はなんと言っても美味しい！！しかも1食250円程で大量に出てくるのでコスパも抜群！！中国料理といっても辛くなく食べやすい！！円形テーブルでTHE中華料理！といった雰囲気でも食べられます！ちなみに最もキャンパー大興奮だったのが「マーラーカオ」！4回おかわりしてチャイニーズに引かれました！！



↑ オフィス付近の焼きそば！美味しい！



↑ 例のマーラーカオ！



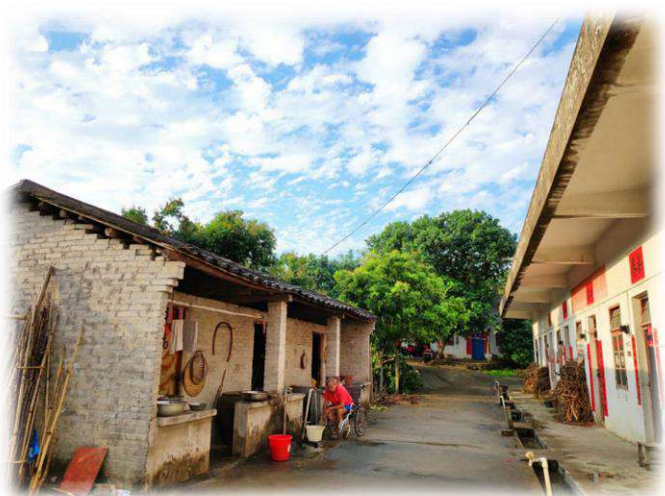
乾杯!!

村での食事は、マーケットで買った食材を村に持ち込み、キャンパー自身で調理します！村には釜戸があり、火を焚いて大鍋で調理します！朝はお粥と炒め物 1 品、昼と夜は白米とおかず 3,4 品といったメニューとなっていました。味は何ととってもこれも美味しい！！食べる前にはテーブルをキャンパー全員で囲ってキャンプソングを歌います！家族のような団らんとして雰囲気ワイワイしながら食べることができました！ちなみに僕のお気に入り「豚肉とナスの炒め物」です。



○住

村にはキャンパー用のスリーピングルームがあり、そこにゴザや布団を敷いて寝ていました。その部屋で MTG を行うこともありました。ワークキャンプでは毎晩どこで寝るかを決めるためのゲームがあり、盛り上がりました！



○お風呂&トイレ

村でのシャワーは、バケツに熱湯を汲み、水を混ぜて良い湯加減になるようブレンドして作ったお湯を桶ですくって浴びました。オフィス滞在時にはお湯のシャワーを浴びることができます。総じてお湯を浴びることができたので快適でした。

トイレは洋式と和式どちらもあります。バケツで水を入れ、水圧で流します。トイレットペーパーはそのまま流すと詰まりの原因になるのでゴミ袋に入れて捨てました。



各係報告

キャンプリーダー, GL(ジェネラルリーダー)

in 儒洞キャンプ(しばた~)

<仕事内容>

儒洞ワークキャンプ、ピジットにおける全体のリーダー。

キャンプが円滑に進んでいるかどうか常に気を配り、みんなをフォローする仕事。

(国内)

* JIA のメンバーと連絡を取り合う。

(スケジュール、参加人数、訪問する村などについて)

* ミーティングの準備、進行

* キャンパーを見守る。

(現地)

* キャンプの運営

* 日本人ミーティングを定期的に行う。

* みんなを見守る。



<総括>

今回は FIWC 九州として初の試みとなった、2つの村へ分かれてのワークキャンプでした。いろいろと問題が懸念されていましたが、特に大きな問題が起こることなく、どちらのキャンプも充実したものとなりました。もう一人の GL だいすけ、ほかのキャンパー、現地でお世話になったタイランさん、JIA のみんなには感謝しかありません。本当にありがとうございました。

KP(キッチンポリス)in 儒洞キャンプ(きたまな)

<仕事内容>

* Cooking competition の準備

* 各食事の調理メンバー、食後の皿洗いメンバーの決定

* 残っている食材の把握

* 食事の残飯の把握

* 村を出発する前の調味料と調理器具の確認



〈総括〉

食事の食べ残しが多かったので、次回からは使ってもよい食材の量を KP が料理するメンバーに伝える必要があります。キャンプ前の Cooking competition の打合わせはきちんとできていたと思います。でも、Cooking competition 直前になってトラブルが多発したので、キャンプ前に話していたことをキャンプ中に確認する必要があったと思います。ミーティング中に私の英語ができなさ過ぎて、いろんな人に迷惑かけてしまったので申し訳なかったです。

EL(エンターテインメントリーダー)in 儒洞キャンプ

(かせちゃん)

〈仕事内容〉

(国内)

- * キャンプソング、キャンプダンスを決定
- * キャンプダンスの練習
- * カーニバルの内容の把握
- * ゲームの内容を考える

(現地)

- * ランニングの誘導
- * キャンプダンスの指導
- * 切り絵プロジェクトの運営
- * カーニバルの運営
- * ナイトチャットの準備&片付け
- * ウェイクアップゲームとパニッシュメントの指揮



〈総括〉

EL 自体の活動は円滑に進めることができたと思います。個人的には、日本人キャンパーに活動内容を伝えたり、キャンプダンスを指導したりすることができました。EL が主導するプロジェクトが成功し、村人やキャンパーたちが楽しんでくれたので良かったです。しかし、チャイニーズキャンパーの EL に頼りすぎて、私から自主的に動いたり、彼らをサポートしたりできなかったことが反省です。EL は仕事が大変だけど楽しいと聞いていたけど、それは自分がするかしないかで変わるのだなと実感しました。もっと積極的にプロジェクトや EL の仕事に関わればよかったと思います。



GL（ジェネラルリーダー） in 藤橋キャンプ（だいすけ）

〈仕事内容〉

（キャンプ前）

- * チャイニーズの PT（プロジェクトチーム）と連絡を取り合い、情報を受け取り、発信する。
- * テンチャオキャンプ関連の MTG の主催・進行

（キャンプ中）

- * キャンパーの安全や健康管理
- * 各リーダーMTG に積極的に参加しサポートを行う。
- * 全体・日本人 MTG の主催・進行
- * キャンプ全体の進行を把握し、円滑にキャンプが行えるようにする。



〈総括〉

- * キャンプ前、日本人新キャンパーが上手くチャイニーズと連絡を取りあえているか実際に MTG に参加して把握するべきでした。
- * キャンプ中、各リーダーMTG のサポートが不十分でした。
- * 全体としては、チャイニーズ GL との連携が上手くいったことから、日本人側の意見を反映させやすい環境でした。

LL（ライフリーダー）in 藤橋キャンプ（りか）

〈仕事内容〉

- * プロジェクトの準備
- * ベッド決め
- * 保険バックの管理・補充
- * 朝清掃のシフト管理



〈総括〉

キャンプ地が二つに別れるということで、保険バックを新しくもう一つ作りました。キャンプ前に本来行うはずだったチャイニーズとのビデオ通話は、スケジュールの都合が合わずできませんでしたが、Wechat を通じてプロジェクト内容を教えてもらっていたため、当日はスムーズに行うことができました。チャイニーズとの関係も大変良好でした。

EL(エンターテインメントリーダー)in 藤橋キャンプ

(うらちゃん)

<仕事内容>

- * キャンプソングの決定
- * オリエンテーションゲームの企画
- * パーティの企画
- * レクリエーションの準備
- * パニッシュメント



<総括>

ELのもっとも重要な仕事は、キャンプの雰囲気作りをすることだと今回のキャンプで感じました。今回のキャンプではその仕事の大半をチャイニーズに任せてしまったのが反省です。キャンプ内の企画についても、もっと日本人が出来ることはあると思うのでキャンプ前のミーティングをより綿密に行う必要があると感じました。

KP(キッチンポリス)in 藤橋キャンプ(ぽぽ)

<仕事内容>

- * キャンパーの食事管理
- * 毎日の料理のシフト作成
- * 食材、キッチンの管理
- * 食材の購入



<総括>

今回のキャンプで JIA の KP のリーダーが日本語を話すことができたので、わからないことはすぐに聞き解決できていましたが、食材の購入などどうしても中国語が必要なため JIA の人たちに任せて、そのあとのことまで任せてしまうことが多かったです。

Nianli festival の日、キャンパー同士は前日のミーティングでどの村人の家で料理させてもらうか、などを決めていたのですが、当日急な変更等があり少しバタついてしまいました。また、その日は日常的な料理を提供しましたが、村人の何人かにとっては硬くて食べられない料理もあり、何品かやわらかい料理を用意する必要がありました。

保険について

今回はジェイアイ傷害火災保険が提供するたびほに加入しました。

FIWC九州の規定である、治療費用3000万円以上、その他傷害、過失、疾患等の保険内容を満たすものに登録、カスタマイズすることをキャンペーに義務づけ、MTG中に各自で入りました。今回か

かった保険費用は**約6,250円/人**でした。下記がその保険内容と設定した金額です。

保険内容	金額
傷害死亡	1,000 万円
傷害後遺障害	1,000 万円
疾病死亡	1,000 万円
治療・救援費用	3,000 万円
緊急歯科治療*	10 万円
個人賠償責任 (自己負担額なし)	1 億円
携行品損害 (自己負担額なし)	10 万円
航空機寄託手荷物遅延 (定額払型)	1 万円
弁護士費用	100 万円
テロ等対応費用	1 万円

会計について

担当:ぼぼ(テンチャオキャンプ&ガオミンビジット)
きたまな(儒洞キャンプ)

概要

今回のキャンプでは二つのキャンプ地で行ったので、キャンプ地が分かれるときだけ会計をわけ、一緒に行動するときは会計を合わせて計算しました。

仕事内容

資金の徴収・換金
生活費と個人費分割後、前者を管理。



換金

<最初の予定>

国内にいる間に、国外費として一人あたり 25000 円を収集し、JIA オフィス(中国)の近くの銀行で換金した後、個人費と生活費をわけました。日本円で、生活費約 15000 円、個人費約 10000 円になるように分けました。

生活費(全体会計)

6107 元→103,689 円 (一人あたり 14812.7 円)

個人費

一人あたり 600 元→ 10187.3 円

※ 1 元 = 約 16.98 円 (上記は小数点 2 桁以下切り捨て)

中国の JIA オフィスの近くの銀行で換金しましたが、中国に着いた初日、銀行が閉まっていたので、次の日に換金しました。

<結果>

※以下全て一人あたりの金額で円の小数点以下は切り下げており、元の小数点は2桁以下を切り捨てています。

【国外】

● テンチャオキャンプ

宿泊費	12.3 元	209 円
交通費	55.3 元	938 円
飲食費	135.2 元	2295 円
テンチャオ村キャンプ 費	343.0 元	5824 円
高明ビジット	119.0 元	2020 円
その他	35.4 元	601 円
合計	700.1 元	11887 円

● 儒洞キャンプ

宿泊費	16.6 元	282 円
交通費	42.3 元	719 円
飲食費	112.8 元	1915 円
儒洞村キャンプ 費	350.0 元	5943 円
高明村ビジット	119.0 元	2020 円
その他	34.1 元	580 円
合計	674.9 元	11458 円



【個人費】

600 元+残高(1260 元÷7=180 元)=780 元(約 13094 円)

※全体会計の残高を7等分し、個人費にあてました。

【国内費】

航空券	64000 円	
予防接種 (A 型肝炎+破傷風)	約 17000 円	
キャンプグッズ	2250 円	
海外保険	約 7000 円	
日本人企画準備(テンチャオ)		(1200 円)
合計	90250 円	(91450 円)

【一人あたりの総支出】

テンチャオ村キャンプ

25000 円(国外)+ 91450 円(国内)=約 **116450 円**

儒洞村キャンプ

25000 円(国外)+ 90250 円(国内)=約 **115,250 円**

総括

何事もなく会計を無事に終わらせることができました。



他己紹介

しばた～

彼の名前は柴田真人。そう、彼こそが今回のチャイナキャンプのリーダー、Boss of boss である。数々の困難を乗り越え 4 回目にして初の GL という、なんとも頼もしい存在であった。チャイナキャンプ、中国広州のスペシャリストとでも呼んでおこう。ミーティング中もキャンプ中も終始和やかな雰囲気、締める時はしっかり締めてまとめてくれた今回のキャンプ、本当に本当にお疲れ様でした！！

(by りか)



だいすけ

ヒト科有吉目。僕以外のもう一人の GL。
関西人だけあってバイブス高め。
責任感も高め。ちっちゃい女の子好き。(たぶん)
古着が好きでなかなかおしゃれ。

図鑑風に紹介してみたけど、凄くいいやつなんで
気兼ねなく触れ合ってください笑
あと、二年間、一緒にチャイナキャンプしてきて
すごく楽しかった。ありがとう。

(by しばた～)

うらちゃん

いつも何を考えているかあまりわからないうらちゃん。たまにぼーっとしていることもありますが、やる時はやる男！大人しいようで、スキューバダイビングのサークルにも所属しているほど、アクティブなのです。なんとそれだけでなく、キャンプ中に出会ったヘッドウイグという中国のキャンパーからモテモテでした♡彼はまさに足も速いが手もはやい((小声))

(by かせちゃん)



りか



タピオカが好物。、一見、大人しそうに見えるりかさん。可愛いくて、ちっちゃくて、ノリノリでめちゃくちゃおもしろいんです！チャイニーズからも日本人メンバーからも慕われてましたね。大きなお皿で、ガーツと豪快にご飯食べたり、チャイニーズからもらった豚の人形と一緒に写真撮って満足そうにしていたり、不意にする行動がめちゃくちゃおもしろかったです笑写真を撮る時はノリノリで可愛かったです！あるチャイニーズからは、妹として可愛がられていた様子笑とにかくサイコーでした！

(by まなみ)

かせだ

キャンプ前 MTG の遅刻常習犯、加勢田有希。「ねえぼぼ、私のアイマスク知らん？」と何度も聞かれましたがいつもあなたの足元にありました。犯人扱いしないでいただきたい。そんな彼女ですが、気が利き、自己主張もちゃんとできる、一緒にいて安心感が素晴らしい子です。ルードンキャンプはしばた～ときたまなというボンコソ二大巨頭を抱えて心配が止まりませんでしたが無事に完遂できたのは加勢田の力かなと思ってます。お疲れ様！これからも頼りにしてる！笑 次は同じ村でキャンプしたいな。(by ぼぼ)



きたまな

愛すべきポンコツ。

We will go to the airport を We will go to the apple と聞き間違えるほどの英語力を持つ。何故かチャイニーズとも村人ともすぐに仲良くなる。

次回キャンプの GL 候補。にはなれなかった。次々回にご期待。
(by うらちゃん)



ぽぽ

感性が物凄く豊かで泣いてしまう場面も。村人とキャンパー全員に笑顔向け、誰よりもキャンプについて考える姿は先輩ながら尊敬ものでした！

そしてそんなぽぽちゃん、実はキャンプ 1 のしっかり者！お姉さんの一面も垣間見えました！ぽぽと一緒にワークキャンプ参加できて助かったし楽しかったよ！

まーそれはそうとして高明いる時、愛しの May ちゃんをずっと独占しやがったのはまじ許さんから(^)/

(by だいすけ)

キャンパー感想

北村 真海

私は今回キャンプに参加して、いろいろ感じる事がたくさんありました。

キャンプに行く前の MTG では、同じキャンパーがきちんと意見を発言したり、考えを持っていたりする中、私は全然、意見を発することができず、とても不安でした。その状態のまま、キャンプ本番を迎えました。でも、実際行ってみるとその不安は吹き飛びました。チャイニーズも村人達も明るく元気で、とてもいい人達ばかりでした。



最初に儒洞村に着いた時、私は驚きました。私たちのことを全く知らないはずの村人達が、歓迎ムードで迎えてきてくれたのです。すごく嬉しかった。でも、きっちり村人達と話すとなるとやはり難しいものがありました。私は、儒洞村に着いて2日が経ったころ、村人との言葉の壁に大きくぶち当たりました。その日、おじいちゃんが一人で座っていて、私はただ隣に座ることしかできなかつたです。何を話したらいいかわかりませんでした。このできごとが一番の今回の後悔です。でも、村人達はそんな私に対しても何言ってるかは、わからなかつたけど、話しかけてくれました。私は村人の優しさが嬉しかったです。私は村人達が、ハンセン病で苦しんでいた過去を持っていたなんて感じませんでした。近所のおじいちゃんおばあちゃんと接しているようでした。私は、ボランティアでこの村を訪れたのに、逆に私の方が元気をもらっちゃいました。



後日タイランさんの家にお邪魔させてもらいました。その時に、村人の笑顔の陰に何かがあると思う?と問われた時、ハッとしました。私は7日間村人接してきたのに、その答えが全くわかりませんでした。私は村人がどんなことで苦しんでいたのかどんな暗い過去があるのか全然知りません。このキャンプに参加する難しさを知りました。それと同時にもう一度参加して、本当の意味で村人にとって私たちが心の支えになれるような存在になりたいと思いました。

ところで、チャイナキャンプでは、JIA という中国の非営利団体と共同でプロジェクトを行います。その団体のキャンパーも私達と同じくらいの学生なんですけど、その学生の意識の高さに

驚きました。夜の MTG 中、今日面白かったことやみんなに伝えたいことがある人は、話します。「だれか話したいと人いますか？」と聞くと、ほとんどのチャイニーズは、手をピンと伸ばし話します。日本ではあまり見られない光景で、自分の意識の低さを痛感しました。

今回チャイナキャンプに参加して、本当に良かったです。2 週間という中で、自分の中で課題を見つけたり、周りの意識の高さを見つめる機会になりました。次回、参加する時は、経験したことが次につながるようキャンプに向けて準備したいです。

浦郷 周平

今回のキャンプは初めてのキャンプでありとても不安だった。文化も言語も違う中で、中国人キャンパーや村人と上手くコミュニケーションをとれるのか、自分が村に行くことで何か村人のためにできることがあるのか分からず不安だった。

今回のキャンプを振り返って一番思うのは「もっと何か自分にできることがあったな」ということだ。正直言って、キャンプ中は慣れない生活の中で、他のキャンパーについていくのが精一杯だった。ELの仕事に関しては、その大半を他のチャイニーズに任せてしまい、自分にできることが少なかった。村人とのコミュニケーションに関しても、チャイニーズが村人と話しているところに、ただただニコニコして座っているだけだった。言語の壁も感じたし、共通の話題を見つけることもできずに何を話しているのか分からずに困惑することが多かった。村人の中には、自分が日本人ということもあり、興味を持ってくれたり、昔来た日本人のことを思い出しその話を語ってくれる人もいた。自分もいつか他の日本人キャンパーが来たとき、村人に思い出してもらえるくらい親しくなりたいと思った。

他のキャンパーたちは自分なりのコミュニケーションの仕方を持っていて、村人と親しくなっていたが自分はなかなかそれが出来なかった。しかし、他のキャンパーたちが村人と交流するその姿は自分にとっていい手本になったし、自分も頑張ろうという気持ちになることができた。唯一、一緒にチェスをやったときは、自分が負けて悔しがっているときに、村人がこっちを見て笑っていてなんとなく同じ時間を共有している気がして嬉しかった。村では筆談をする機会があまりなかったので、もっと筆談をやっていたら村人より深い話ができただろうかと後悔している。

チャイナキャンプの大きな目的は「交流」だろう。私もキャンプ中はこのことを常に考え、どうやったらより深い関係になれるか悩んでいた。今、私が思うのは人にはそれぞれ自分の交流の仕方があるのだということだ。私は、他のキャンパーたちのように初対面の村人にグイグイ関わっていくのは無理だ。その代わり、時間をかけてじっくりと親しくなることはできる。それが自分のやり方であるし、他人の方法を参考にしても、この根本は変わらないと思う。

キャンプ前は、キャンプは1回限りにしてもう行くことはない、と思っていた。しかし、今となっては今回のキャンプで感じたこと、学んだことをまた次のキャンプに生かしたいと思い、1 回限りで終わらせたくないと思っている。今回できなかったことも次のキャンプまでには出来るようになりたいし、次参加したときは今回とはまた違った経験、感情を味わうことができると思う。また行こうかな中国。

樋口 歩美

今回初めてキャンプに参加して、チャイナキャンプはいつも「村人」が主語の素敵で温かいキャンプだと思った。日本人キャンパーたちを言語面、生活面、その他たくさんの面でいつも助けてくれる JIA のチャイニーズたち。悩んだ時や困ったときすぐに相談に乗ってくれる日本人キャンパー。いつも笑顔で接してくれて、本当の孫のようにかわいがってくれる大好きな村人たち。周りの優しさにたくさん助けられ、人の温かさにたくさん触れた二週間だった。大切な人がたくさんできた。自



分よりも他の人のことを優先して考えた時間だった。キャンパーみんな自分じゃない誰かのことを考え、行動していた。正直自分が村人に何をしてあげられたかとか全然わからなくて、むしろ毎日自分が元気づけられ、勇気をもらい、笑顔にしてもらっていたと思う。

キャンプ前ミーティングなどで、以前チャイナキャンプに参加していた先輩たちからたくさん、本当にたくさん話を聞いていたため、楽しいんだろうな、私も先輩たちみたいに村人と仲良くなれたらいいな、そんなわくわくした気持ちばかりだった。もちろんハンセン病についてキャンパーが各自で調べて発表する機会はあったりして、「ハンセン病」という言葉自体はずっと自分のそばにあったけれど、自分の感覚としては海外に友達(?)を作りに行く、という感じが強かった気がする。あまり「ハンセン病」とか「ハンセン病快復者」ということは考えていなかったように思う。

実際に村に着いて、車から降りたとき、村人は手を振って笑顔で私たちを迎えてくれた。驚いた。JIA が何度もテンチャオ村でワークキャンプを行っていることは知っていたし、10 年ほど前に日本の別の学生団体が来ていたことも知っていたけど、それでも初対面の私を笑顔で迎えてくれて、すごく嬉しかったし、安心した。確かに、話に聞いていたとおり、指がない、足がないおじいちゃん、おばあちゃんがいる、目に見えるハンセン病の跡は探そうと思わなくても自然と目に入ってきたけど、それでも怖い、とかの感情はなくて、どうやったら仲良くなれるかな、そればかり考えていた。

広東語を話せる JIA の学生と毎日ホームビジットに行った。どの村人も笑顔で迎えてくれて、お菓子をくれたりして、一緒に食べたりしながらいろんな話をした。前に来ていた日本人の学生の話を持ちそうにしてくれる村人もいれば、彼氏はいるのか、とか恋愛の話で仲良くなった村人もいた。うまく質問とかできなくて、村人に聞かれたことに答えるってことばかりだったけど、思っていた以上にすぐに仲良くなることができ嬉しかった。あと、村人の家に行くことで、あ、このおじいちゃんすごくきれい好きなんだとか、それぞれの村人の性格も知ることができた。

自分でもよくわからない不思議だなと思うけど、村人に対して言語の壁は全く感じなかった。私は中国語も広東語も話せない。でも村人も英語、日本語を話すことはできない。共通言語がない。だ

から、多分いい意味で諦めることができたのだと思う。言葉で何かを伝えることはできないけど仲良くなりたくて、何も話せないのに村人の家に行って日本語で話しかけたりして、村人も広東語で話すから実際何を言ってるかはわからないけど、でもなんとなく言ってることが分かって会話が成立してた時が何度かあった。伝えようとすればちゃんと伝わるんだなって実感して、嬉しかった。

キャンプが始まってしばらくは、村人と仲良くなりたいたいという思いだけでどんどん積極的に行動できていたけど、折り返し地点が過ぎて、キャンプが終わるのを感じるようになってくると、どんどん寂しさが増えていった。大好きな村人とのお別れの時間が近づいているのを感じるにつれて何故か村人に会うのが怖くなっていった。出会ってたった何日かなのに、また来てねって、また会うまで長生きするって言ってくれる村人もいて、そう言ってくれたことはすごく嬉しかったけど、でもまた会えるって約束できないし、何より約束するのが怖くて、こんなに純粋な気持ちでまた会いたって言うてるのに自分はまだ次会える保証はないんだよなとか、先のことを考えすぎて、素直に向き合えない、そんな自分をすごくずるい奴だと思った。今思えばなぜもっと話しかけに行かなかったのかと後悔してるけど、でもあの時の自分は村人と少し距離をとらないと怖かった。自分の中でどんどん、村人という位置づけから、本当の自分のおじいちゃん、おばあちゃんみたいになっていく感じがした。大事な人、大切な人になっていった。それってすごく幸せなことだなとは思うけど、うまく言葉にできない感情があった。

村にいるとき、私は一度も彼らをハンセン病快復者だ、なんて思っていなかった。明るくて優しい笑顔の多い村人たちだった。孫みたいにかわいがってくれた。行く前は、もちろんハンセン病快復村に行くんだから村人にハンセン病になってから思ったこととか聞けたらいいなと少し思っていたけど、テンチャオはすごく明るい雰囲気、そのことを聞くタイミングもなかったし、村人と交流する中で、私のこの知りたい、聞きたいという思いはただの野次馬根性と一緒で、村人が話したくないかもしれないことを聞くことはすごく自分勝手なことじゃないかなと思うと聞けなかった。結局一度も聞けなかった。聞けなかったからこそ、今思うことは彼らに出会うまで「ハンセン病快復者」の肩書きを無意識に自分が村人に付けていたかもしれなかったけど、でも私が出会ったのはただ「ハンセン病快復村」にいるだけの、本当に心の優しい、温かい村人たちで、ひとりひとりの人間なのだ、ということ。だから、悲しい過去を背負っているのに、とか差別や偏見の目を向けられてきたと思うのに、とかそんなことを自分の想像で書きたくない。

チャイナキャンプは終わりが無い。可視化できるものが他に比べて圧倒的に少ないキャンプで、自分たちが行ったからって村人に何かプラスになるものがあるかどうかはわからなくて、でも自分にとって帰りたい場所で、また会いたい、そう本気で心の底から思える人たちがいる温かいキャンプで、そんな素敵なキャンプに参加できて本当によかった。JIA のチャイニーズ、日本人キャンパー、その他たくさんのおかげで楽しいキャンプを過ごすことができました。ありがとうございました。

加勢田 有希

私は今回が、初めてのワークキャンプ参加でした。まず、なぜ私がチャイナキャンプに参加する事を決めたかという、初めはただ中国に行ってみたい、現地の学生はどんな考えを持っている人達なのだろう、という中国に対する好奇心からでした。最初は、こんな気持ちでチャイナに行っているのかと、不安もありましたが、事前ミーティングを重ねたり、チャイナキャンパーと話したりするにつれて、村人たちに会ってみたい、楽しませたいという気持ちが生まれました。また、私が初めて「ハンセン病」に



出会ったのは、小学生の頃に行った「様々な差別」に関する調べ学習で、個人のテーマにしたことでした。当時は、ただ周りの人達と発表の内容が被ってしまわないようにと、あまり知られていないものを選んだ記憶があります。今回のワークキャンプ参加にあたってハンセン病についての浅はかな理解を、深い理解に変えたいと思って参加しました。

私が現地を訪れて感じたことは、村人の「生きる力の強さ」でした。行く前までは、私が今回行るのはワークキャンプというよりも、介護的要素を含めた村人との交流だと思っていました。なぜなら、ハンセン病の元患者の多くは、後遺症が残っていたり、切断手術を受けたりしていると聞いていたからです。しかし、実際に村人たちは、自身の力で生活をしており私たちの介護的補助など必要ありませんでした。それは私にとって驚きであり、焦りでもありました。そこから私は、彼らに対して何をすればいいのか、何ができるのかが分からなくなりました。交流とはいえ、中国語や彼らの話す方言はほとんど知らないし、どうやって会話をすればいいのか、何を話せばいいかわからず途方にくれていました。なぜ海外に来て言葉も伝わらない人々のもとでワークキャンプをするのか、今回のキャンプの意義を見失ってしまいました。一緒に行ったオールドキャンパーやチャイニーズキャンパーの助けもあり、7日間の滞在を乗り切ることができましたが、とても考えさせられる7日間になりました。ハンセン病に対する知識も持って行ったにも関わらず、私は彼らに対して偏見を持っていたことに気が付きました。違う言い方をすれば、今回の村での7日間の滞在を通してわたしは、「ハンセン病」に対する偏見をなくすことができました。

村人たちは、私たち日本人が村に来てくれることをとても喜んでくれました。キャンプのプロジェクトで、日本料理 VS 中国料理を行ったのですが、なんと日本料理が勝利しました。チャイニーズキャンパーの1人が、なぜ日本チームに投票したのかを村人に聞くと、「また彼らに来て欲しいから」と答えたそうです。例えば、日本で震災が起きた時に、わざわざ海外から日本に来てボランティア活動をしてくれたり、海外から物資を支援してくれたりする外国人がいると誰もが嬉しくて幸せな気持ちになる

と思います。それと同じで彼らにとって私たち外国人は、喜びであるのではないかと思います。国の政策により、少し奥まったところにたった数十人で住んでいる彼らのために、私たちは、ただの協力団体としてではなく、1 人の人間として、本当の家族ではないけれど、まるで親戚のような存在として繋がっていることが私たちの役目なのだと思います。

村人の中に、彼らが若い頃に、周りから受けていた差別や偏見について語ってくれる人がいました。高校の頃に病気がわかって、急に家族と離れ離れになった話、高校時代の友達はそれから一切連



絡をとっていない話、きっと彼にとってつらい過去を私に話してくれました。ご高齢になった今でも当時のことを鮮明に覚えているということに私はとても驚き、そのことを語ってくれたことをとても嬉しく思いました。彼は、他にもハンセン病に関する正しい内容が記載されている雑誌の記事を今でも大切に持っていました。それらを見せてもらったり、聞いたりしたことで、私たちはそれら事実の「継承」をする使命を担っているのだと改めて感じました。

最後に、私が今回のキャンプで学んだことの一つとして、実際に現地へ赴いて事実に触れることが何よりも大切だということです。まさにことわざの「百聞は一見に如かず」です。ハンセン病に関する偏見もそうですが、私は中国に行く前までは、中国人はとても自己中で、冷たい人々だと思っていました。でも、キャンプを通して、彼らは、とても優しく思いやりがあって楽しい人々だということを知りました。様々な情報が流れてきたり、インターネットで何でも検索できたりする時代ですが、実際に時間をかけて自分の目で見て確かめることでしか分からないがたくさんあると思います。無知も怖いことですが、浅はかな知識による偏見、差別はもっと恐ろしいことだと思います。だからこそ何事に対しても、経験することが大事であり、その経験を「言語化」して知らない人や、偏見を持っている人達に伝えていくことが今の時代に必要なことだと思います。

今後の活動として、私はまだ日本のハンセン病療養所に行ったことがないため、日本で何ができるかを考えて、実際に訪れてみたいと思います。そしてまた、夏に中国の村を訪れて、今回のキャンプで学んだことや後悔したことを生かしてまた新たな発見をしたいと思います。

青木 里花

今回は私にとって 2 回目のチャイナキャンプでした。1 回目は 2018 年の夏、私が 2 年生のときでした。なぜ 2 回目も行こうと決めたのかは一言で言うと、1 回だけで終わらせたくなかったからです。2 ヶ月以上もある春休みで特に何かをする予定もなく、行けるチャンスがあるのに行かないのは、あとで絶対に後悔すると思ったからです。実際に行ってみてやはりまた来てよかった、あのときの決断は

間違っただけでなく感じました。今回のキャンプは1度経験したからこそ生まれる心の余裕があり、行く前からキャンプが楽しみでしかなく、中国についてから日本に帰ってくるまで、心の底からみんなと笑い合い楽しむことができました。キャンプ地である村に行く前に寝泊まりをするオフィスの近くに行くと、ああ懐かしいなあという気持ちになりました。チャイニーズは相変わらず元気で面白くとても優しく、キャンプ中何度救われたか数え切れないほどです。中国人に対して否定的な考えをもっていてキャンプに行くかどうか不安を感じている人もいますが、私たちが一緒に活動する JIA の学生たちは、私達が想像する何倍も優しく、常に私達のことを気にかけてくれる心の温かい人たちです。また今回のキャンプには日本について興味があり大学で日本語を学んでいるチャイニーズもいたので、その子たちと日本語で会話をする機会もありました。基本の会話は英語ですが、コミュニケーションを取る上で英語の上手い下手いは関係ないと思います。冗談かと思うかもしれませんが、大事なのは気持ちです。

これと同じことが言えるのが村人に対してもです。村人とは言語は通じませんが、一緒に生活をしていくと心が通じたような気持ちになります。村人は明るい性格の人が多く、冗談を言って笑わせてきたりアルコール度数のとても高いお酒と一緒に飲もうと誘ってきたりします。ホームビジットのときに印象に残っているのは、このお酒を強く勧めてくるおじいちゃんです。最初の方は少し躊躇っていたのですが、何回もテーブルを囲んで作ってくれたご飯



と一緒に食べてお酒を飲むうちにその空間が心地よくなっていました。何年も前に村を訪れた日本人キャンパーの写真を今でも大切にとっていて、私たちに説明をしながら見せてくれて、そのときの嬉しそうで生き生きとした村人の顔を見ていたら、私まで自然と笑顔になっていました。多くの村人の部屋には日本人キャンパーの写真が沢山貼ってあり絆を感じました。チャイニーズに教えてもらった麻雀を村人も一緒にやりました。テンチャオ村は終始笑いに溢れる村でした。家族の人と連絡をとっていて、今から家に行くんだと嬉しそうに話したり、隣の村から友達がきておしゃべりをしたりする日もありました。JIA や他の団体が長年村を訪れたからこそできた雰囲気です。今までは高明と儒洞の2つの村でワークキャンプを行ってきましたが、テンチャオ村もとても楽しい村なので1回きりで終わらせてほしくないと思います。

今回のキャンプで1番感動したことは、前回ビジットで訪れた儒洞村の村人が私の名前を覚えてくれていたことです。たったの3日間しか訪れていなかったのに覚えていてくれたことがとても嬉しくて、それなのに私は今回村に行けないことが歯がゆかったです。1年生の頃から毎回儒洞村に行っているし、ばたーのことが羨ましくも感じました。同じ村に何度も行くことで、村人との信頼関係も増して、しばたーも言っていたけれど、まるで家族に会いに行くような雰囲気です。とにかくすごく素敵な関係だと思います。1年生は今回のキャンプに3人参加しましたが、みんな初めてとは思えないほど村人と真摯に向き合い考えていて、次のチャイナキャンプにも是非参加してほしいと感じました。写真を見返して

いと、どの写真を見てもそのときの様子を色濃く思い出すことができ、できることならもう 1 度戻りたいです。日本で何もすることのない毎日を送っていたら触れ合う機会のなかったであろうチャイニーズキャンパーに出会えて、村人に出会えて、彼らとこの先忘れることのできない日々を過ごせたことは私の人生の財産です。社会人になる前にもう一度彼らに会いたいと強く思います。何度も言うけれどチャイナキャンプに参加してよかった！行く勇気を出してよかった！

中川 大輔

さて、何を書こうか。私がここでチャイナキャンプに対する思いの丈を全て打ち明けることはできない。今回の感想では二つのテーマに焦点を絞って書きたいと思う。それは『思いの伝承』と『日本人キャンパーにできること』だ。

まず、前者についてだ。これについて書く前提として、私が最初に行ったチャイナキャンプに話を戻そう。当時、後発組でチャイナを訪れ、村に滞在するのはたったの二泊三日であり、右も左もわからないまま初日を過ごした。村人との触れ合い方もわからなかった。ただ村人と楽しく時を過ごしたけだった。何も考えてなかった。何を考えれば良いのかもわからなかった。その夜、ナイトチャットの時間に Old の日本人・中国人キャンパーからキャンプに対する考えを聴かせてもらった。これらを聴いた瞬間、キャンプ中ただ楽しんでいただけの自分がいかに愚かだったかを気付き、同時に激しく後悔した。考えなければ、自分の行動の仕方は変わらないし、村人に対する思いやりの妥協点になってしまう。その話が私にキャンプに対する考えの基盤を与えてくれ、それを基に成長し、今の『私』がある。

そして、今キャンプ、ワークキャンプの GL となり新キャンパーに考えを伝承する立場となった。普段の生活の間に話すことはもちろん、まず例としてアクションに起こしたことはワークキャンプ 4 日目に行なった『日本人 MTG』だ。ここで、各キャンパーが今の思いや悩みを打ち明け、そこから私の考えを話すことができた。村人との交流の仕方やどのような気持ちで村人と接すればいいのかなどを話し



合った。また、その後、私の考えだけでなく、中国人で共に GL を担ったキャンパーにも過去のキャンプについて話してもらった。時間の関係上、充分とは言えなかったが、新キャンパーの振る舞い方が変わったのは見て分かった。それらの考えをかみ砕き、取捨選択し、自分のものとして、村人のために新たに考え続ける。それを誰かと共有し、磨き合う。そして、次に彼らが誰かに『伝承』し、それを繰り返すことで、『私』を含む歴代のキャンパーが、未来のチャイナキャンパーの基盤の一部として、村人のためになり続けることができればよいと思うのです。

ここから、後者のテーマである『日本人キャンパーにできること』について書こうと思う。日本人は言うまでもなく広東語は話せない。村人と話すときもチャイニーズを介して英語で話すことが多い。キャンプの進行に関して言うと、日本人がいない方が円滑に進むことは明らかだ。そのことから時たまに、私達日本人が来ることに意味はあるのだろうかと考える。それを考えたとき、得られる答えはいつも『YES』だ。確かに、日本人が行くことによって与えるデメリットはある。しかし、日本人が行くことによって村人に与えられるものも沢山ある。私が考えるべきことは、『行くことに意味があるのか』ではなく、行った後に、『村人のために何ができるか』だ。では、実際にどのようなことができるだろうか。日本人だからこそのこと。日本語を教えること。日本文化を伝えること。大学生活の話をする。ただ話を聴くこと。村に行くこと。前述した『思いの伝承』もできることの一つだ。今回のキャンプでは、日本人企画として、「駄菓子」と「栗金団」を提供し、Party では「箱の中身は何だろな!？」を披露した。「駄菓子が村人には少し甘すぎたのでは」という反省点が挙がり、中には美味しい振りをしてくれた優しい村人もいるかもしれない。その温かさには感謝しかない。しかし、私達の『日本の食べ物を食べて喜んで欲しい!』という思いが伝わったかもしれないし、何より村人の笑顔を見ることができたから、やって良かったと思う。『日本人がはるばるここに来てくれるだけで嬉しい。』と言ってくれる村人もいる。きっと、できることなど無数にある。その根幹を支えるものは、村人のために何ができるか止まらずに考え続けることであり、かつ、村に行き続け、村人の心に寄り添うことではないか。今回のテンチャオキャンプでは、仲良くなった董じいちゃんが、足が不自由なのにも関わらず、別れ際早朝に、既に帰りの車に乗っている私のところにきて、手を握ってくれた。言っていることはわからなかったが、彼の温かい表情が胸に刺さり、自然と来て良かったと思ったし、また行こうと思えた。だから、ワークキャンプじゃないにしろ私はまた中国に行くし、ちょっと新しい計画を練ろう。



テーマを絞ったつもりだったが、所々脱線してしまったし、まだ書きたいことは山ほどある。色々な感情が折り混じる、これもキャンプの醍醐味かな。ともかく私はこのチャイナキャンプが大好きだ。いつだってキャンプには笑顔が満ちており、誰しもが『温かさ』に満ちあふれている。今回で最後のキャンプにしようと思っていたが、行くたびにまた会いたい村人やチャイニーズキャンパーができて、また行きたくなってしまふ。抜け出せる日は来るとは思えないし、抜けだそうとも思わない。今回のキャンプでも、日本人の新キャンパーから『また行きたい!』って声を聴いて、村人と中国人キャンパーにも『また来て欲しい』って思ってもらえて、本当に安心した。最後に、一緒にキャンプを作ってくれた日本人キャンパーへ、ずっと一緒にいて喜怒哀楽を共にしてくれた中国人キャンパーへ、こんなにも色々な感情を与えてくれた温かい村人達へ、心から感謝申し上げます。そして、私たちの関係が世代を超えて、末永く継続することを願う。

柴田 真人

私はもともと参加するつもりはなかった。しかし、以下の理由から考えを改め、参加することを決意した。まず一つ目に、キャンプの後継者が不足していたからだ。GLは前回のワークキャンプに参加した人の中から選ばれる。ゆうたとまさみは次回には参加しないことはわかっており、残りは、だいすけ、りか、そして自分。だいすけとりかは前회가初めてのワークキャンプであったので、私になることが一番キャンプにとっていいことであると考えた。



二つ目の理由は、前回のキャンプでリーダーという役割の大変さを改めて自覚したからだ。前回のGLであったゆうたはキャンプに行く前のミーティングやキャンプ中、終始周りに目を配り、みんなを見守っているように見えた。また、キャンプを引っ張っていくために場の雰囲気明るくしたり、夜のナイトチャットに積極的に参加したりしていた。彼のその姿は私に大きな影響を与えたと思う。私は前回のキャンプ中、一人責任感を背負って頑張る彼を手助けすることができなかった。私は私個人でキャンプを楽しんでいたのだ。日本に帰国する直前に行ったルードン村でのビジット中、まさみと二人で反省しあったことを深く覚えている。この経験から私が過去三回のワークキャンプで得たものを少しでも後輩に伝え、チャイナキャンプをつなげていきたいと考えるようになった。今回、リーダーをやるにあたって一番大事にしようと心に決めていたことが一つある。それは、一言で言うと「伝える」ということだ。FIWC九州の中でも二年間を通してチャイナキャンプに享受してきた人はほとんどいない。先ほども述べてきた通り、後輩たちにこの経験を伝えるということに加えて、中国人キャンパーにも国際キャンプを行うにあたって大切にすることを伝えることが大事であると考えていた。今までは自分が楽しむことを一番にワークキャンプに参加してきた。すべて自分のために行ってきたのだ。しかし、今回は違う。FIWC九州の後輩のため、中国人キャンパーのため、村人のため...あなたのため。たくさんの人に支えられてここまで来た。そのすべての人に感謝してこの最後のワークキャンプを楽しみたい、そして、今まで培ってきたものをみんなのために使うべきだと考えた。

毎回感じることはあるが、日本人がJIAのワークキャンプに参加するにあたって最も大きな障害は、言語の壁であると思う。村人との関係、中国人キャンパーとの関係。

村人との関係について、私個人としてはルードン村が4回目の訪問ということもあり、今までに作ってきた関係性のために困ることはなかった。あるとしたら、新キャンパーが村人とちゃんと向き合っているかどうか、その手助けをすることであると考えていた。しかし、私のそんな心配は必要がないほど、きたまなとかせちゃんは優秀だった。自分が3回のキャンプで少しずつ成し遂げてきたものをいくつも超えてきた。彼女らにはかなり助けられたと思う。出国前に係ごとにウィチャットで話し合いをする

が、私が一年生のころは、というより今もだが、モチベーションが上がらなく、おろそかにしてしまうことが多い。いつも、キャンプ後の反省点として挙がるのだが、彼女らは違った。自分に与えられた役割を考え、理解して参加しようという意思が強く感じられた。英語が苦手なきたまは中国人キャンパーとのミーティングの資料を自分なりに日本語でまとめ、理解できないところは積極的に質問をする。かせちゃんも自分が必要だと感じた資料を印刷してキャンプに持参していた。当たり前のことといわれるかもしれないが、その当たり前を当たり前にできるくらいにキャンプを考えて参加してくれていたことがうれしかった。村人とのコミュニケーションも最初は戸惑っていたものの、私が何か言うまでもなく自分の意志で村人の近くまで行き、隣に座り、笑顔で接していた。筆談や学校で学んだ中国語を用いてそれぞれが自分なりに会話する二人の姿は私に感銘を与えた。しかし、日本人ミーティングで聞いたように、まったく壁にぶち当たっていないわけではなく、二人とも苦悩していたこともうれしかった。村人と真摯に向き合った結果であると思う。初めてのキャンプは誰しもが必ず後悔やもつところしたらよかったなといった感情を抱く。この感情を忘れないで、今後の活動に役立ててほしいなと思っている。

また、私がもう一つ大事にしてほしいことは中国人キャンパーとの繋がりである。彼らとは英語で会話をし、キャンプ中1週間もの間生活を共にしてきた。キャンプ前日に顔合わせしたときにはお互いに緊張しながら会話をしていた。いや、会話するのもはばかっていたかもしれない。正直、このチャイナキャンプに参加する前は中国人に対していいイメージはもっていなかった。しかし、キャンプ後はどうだっただろう。みんなで



わいわいしながらお酒を飲んだり、おどったり、散歩したり、ゲームしたり... 彼らと過ごした時間は短いかもしれないが、とても密度の濃いものだった。彼らはいろいろと失敗をしてきた私のことをポンコツポンコツといいながらも、二年間も一緒に活動してくれた。こんなに温かい人たちがそばにいてくれたことにすごく感謝している。ワークキャンプという貴重な経験を共にしてきた彼らは一生の宝物になるだろう。英語が苦手な人は大変なんじゃないかと思うだろうが、彼らも母国語は中国語で、英語は第二言語である。私たちと同じ立場なのだからそんなに心配することはない。単語だけでも全然伝えることはできる。もちろんつらい場面はいくつもあるだろうが、自分で壁を作ってしまう前に、積極的に話しかけていけば次第に慣れていくものだと思っている。ぜひとも多くの人にこの関係を味わってほしい。他にも伝えたいことはたくさんあるのだが、書ききれないので直接話をしたりして伝えていきたい。

はい。ここまではなんか、かたつくるしい言葉で超上から目線で書いてきたけど、疲れたのでやめます。(笑)今回のキャンプで僕が感じたこと書いていきます。こっからだけよんでもいいよ！



最初にも述べた通り、僕にとって四回目のキャンプで、行く前から今回で一旦海外キャンプは区切りをつけようと思って参加しました。行く村はルードン村。これは僕が絶対に譲れない条件で、JIAの人にもめちゃくちゃお願いしていました。(笑)二年前に初めて参加したチャイナキャンプでいった村で、僕はこの村の人たちが大好きで、会いたくて仕方がなかったからです。村についてバスから降りると、いつものことだけどみんな出迎えてくれ

て、笑顔でハグしてくれました。やっぱりうれしいですね。日本という全く知らない土地からやってくる僕たちをここまでうけいれてくれるのは、村について最初に気が付いたことは、村の真ん中にあるパビリオン(公園によくある屋根付きベンチのある場所みたいなどこ)が春節の飾りつけされていたことでした。聞くと、村人たちだけで春節のお祝いをしたらしかったです。そのあと、村を歩いてると今度はきれいな建物を見つけました。なんと！きれいなシャワー室が3つも建っていたのです！これは、村のある地域の行政がお金を出して村人のために作ってくれたそうです。びっくりですね、もう。二年前にはありえないことだったからです。それ以外にも、キャンプ中頻繁に、村人全員が明るくなったように感じました。

あるおじいちゃんの話をして。彼は、ハンセン病にかかったことがきっかけで人とかかわりあうことを避けるようになり、言葉を話すことがままならぬくらいまでになっていたときもありました。今でもとてもシャイで二年前には、日本人はおろか、中国人キャンパーとさえほとんど会話せず、広東語でノーという意味の言葉ばかり言っているような人でした。僕も彼と話がしたくて寄り添ってみたいりしてたん



ですが、まったくどうすることもできなかつた記憶があります。そんな彼、今回のキャンプではパーティや食事会など、ほとんどすべてのイベントに参加してくれて、あんなに笑顔を振りまいていました。僕とツーショットをとってくれました。毎朝、おはようって挨拶すると笑顔で手を振ってくれました。ほくは、うれしい、しあわせです。彼だけじゃありません。村全体が変わって

いっていました。大掃除のおかげでハエも随分と減っています。そして、周りの行政までもが影響を受けていました。このとき、これがチャイナワークキャンプのほんとの力なんだってことに気が付きました。僕たちは、ほかのキャンプのように村人に特別なにかを作ったり、買ってあげたりすることはありません。規模も全然大きくありません。ほかのキャンプをうらやましく思うことは何度もありました。だけど、このことに気づくことができたとき、本当の意味で僕の行ってきたワークキャンプを理解し、愛することができました。二年もかかるなんて馬鹿だなあと思いつつ、でも、二年間もこの場所で過ごすことができたことをうれしく感じました。僕のポンコツさに乾杯。🍷

また、みんなめちゃくちゃ前回のリーダー‘ゆうた’に会いたがっていたのもすごく印象的でした。前のキャンパーに電話した時の食いつき方はどこぞの鯉ですかってかんで楽しかったですね。

しかし、うれしいことばかりでなかったことも伝えたいです。村で最高齢だったおばあちゃんがお亡くなりになられていました。いつも同じ場所で椅子に座り、通るたびによくわからないことをしゃべりかけてくれていました。でも、もうその姿も言葉も見聞きすることができなくなってしまいました。また、自転車に乗るのが大好きだったおじいちゃんは足を骨折してしまい、車いす生活を余儀なくされ、もう二度と自転車に乗ることができなくなってしまいました。キャンプ後に7人全員でいったガオミン村では、村についたほんの数日前に村人が亡くなっていました。二年前には60人以上いましたが、今ではちょうど50人になっていました。死というものは確かに彼らのもとへ這い寄ってきていることを改めて強く思い知らされました。残された時間はもうかなり少なくなっています。僕は、彼らが遠くに歩みだ



すその日までこのチャイナキャンプが続いていて、彼らに大きく手を振り、行ってらっしゃいって言ってあげられるようなものになってほしいなと思っています。

今回は、二つのキャンプ地に分かれての開催でもう一つのキャンプ地には、だいすけがリーダーとなって引っ張って行ってくださいました。きっとだいすけのことだから全体のリーダーもやりたい気持ちが大きかったと思うけど僕に譲ってくれて、テンチャオ村のキャンプも大成功に収めてくれてほんとに感謝してる。ほかのみんなも僕たちのキャンプに参加してくれてありがとう。

僕にひとのあたたかさを教えてくれたこの二年間、本当に多くの人に支えられてきました。みんな、ありがとう。僕のチャイナキャンプ第一章はこれにて閉幕です。だけど、もしかしたら第二章があるかも?!なくても、外伝くらいは作れたらいいな!!

本当にありがとう。また、いつか。谢谢。总有一天见到你。

柴田真人

みんなが選ぶベストショット集



儒洞村で二年前から一緒にキャンプしてきたメンバーでの写真。

みんな、今回が最後のキャンプでした。

みんな大好きだ！！！！

特に、grace(下の写真。後ろの男は無視して！笑)とは、すべてのキャンプを一緒に過ごしてきました。

僕の中国のお姉ちゃん的存在です。本当にありがとう！

by しばた～

チャイニーズの EL2 人がとても優しかった。

by うらちゃん



センチのチャイニーズとのラブラブ

写真です。

まるで本物のカップルのようですね。

by りか



日本語上手なおじいちゃん。
とても勉強熱心で、チャイニーズからもらった日本語の単語帳を大切に使っています！
1時間近く日本語を教えたことも(笑)

by きたまな

大好きなラオポポの膝で居眠り
by ぽぼ



by かせちゃん

圧倒的愛人感！！
by だいすけ



今回のキャンプではご飯が美味しくておかわりもしました。
たくさん食べた自分を褒めてあげたいです。

by りか



私が大好きなおばあちゃん

by きたまな

JIAの学生とレンタカーでドライブ中にカラカラ音がしたと思ったら...

鍵ぶっささり～

もう笑うしかないよね(爆笑)

by しばた～



村人とゲームを通して関わって

楽しかった。

by うらちゃん

Happy Birthday May ちゃん!
過去3回のキャンプを一緒に過ごして、
一緒にGLもやって、最高に楽しかった!
圧倒的感謝!!

by だいすけ



テンチャオフォーエバーラブ♡♡♡♡

by ほぼ

超大好きなカップル!
Lai baoとmaomaoの結婚式の日が楽しみだ!
by しばた〜



今後の方針

【2019年夏チャイナキャンプ募集要項】

日程：2019年8月中旬～9月初週の約1か月間

場所：中国広東省広州地区儒洞村

活動内容：ハンセン病快復村でのワークキャンプ

費用：およそ10万円

募集人数：約2人（後発組3～4人程度）

募集期間：6月5日 23:59迄

【チャイナキャンプ説明会】

春のキャンプにむけて説明会を行います！！

興味がある方はもちろん、どのキャンプに行くか迷っている方！

是非、気軽に遊びに来て下さい！

11/3(土) FP(3キャンプ合同説明会) 19:00～@びおと一ふ

11/6(火) 説明会 16:30～@九大メインダイニング

11/12(月) 説明会 未定 @西南クロスプラザ

ちなみに…全てフィリピンキャンプと合同で行いますので、フィリピンとチャイナどちら
も聞きたい方は特に必見です!!☆

また、上記の日程が厳しい方には個別説明会を行います。

いつでもどこへでも説明しに行きますよ～！お気軽にご相談下さい(^▽^)/

西南学院大学 文学部外国語学科英語専攻2年 加勢田有希

Mail address : s22ac082@seinan-gakuin.jp

ny, Edison, Bamboo,
Quinn, Ivar, Mango, Ivy
Rachel, Ann, Lily,
Leeann,, Lemon,
Flying, Daiuke,
Popo, Shuheir



Aqiang, Coco, Dato,
Echoco, Laohu, Grace,
Jane, Jessica, June,
Nove, Minyo, Monkey,
Maomao, Peach, Room, Bobo
House, Meggie,
Daisy, Kyrie, Jack,
Shibata, Yuki, Manam

